



# なごや「聖歌」だより 7月号 '10

## 代式のススメ

大正15年、セルギイ府主教巡回時の半田教会(当時は乙川教会)後列左から4番目が望月伝教者

17年前、初めて半田教会に行ったときの事です。土曜日の晩祷、ニーナおばあさんが乳母車を押して坂を登って来ました。聖堂の入り口で正座して十字を書き、左の方にぺたんとして座りました。

徹夜祷が始まりました。ふと見ると、ニーナさんは楽譜も見ずに歌っています。8週間に1度しか巡ってこない調のスティヒラも、こともなげです。驚いたことに、すべての歌を諳んじていました。

半田教会の歴史を調べるうちに謎がとけました。戦前から司祭の巡回は一、二カ月に一度でしたが、土曜会または日曜会という名で毎週信徒宅持ち回りの祈祷会を戦後まで続けていたそうです。

その中心だったのがペートル望月伝教者で、ロシア革命で教団の経済が逼迫し無給となった後も、信徒を指導し、熱心に祈祷を続けていたそうです。

かつて全国に派遣された伝教者たちは数ヶ月に一度の司祭の巡回を首を長くして待ちつつ、信徒とともに代式祈祷を行って教会を守ってきました。今も司祭不在の日曜日、信徒が集まってニコライ大主教が編纂した「代式祈祷」を行っています。



若き日のニーナさん

15-4

晩課や早課も代式で行うことができます。修道士さんから代式の基本を教えてくださいました。司祭しか唱えられない祝文はオミットし、連祷はすべて「主憐れめよ」12回で代用します。修道院でも、ふつうの修道士修道女は神品ではありませんから、司祭のいない場合は代式祈祷で早課晩課を行うそうです。

祈祷が行われるとき、聖堂という建物は眠りから覚め主の体となって息を吹き返します。あらためて代式祈祷の力を見なおしてはどうでしょうか。

聖歌練習

♪名古屋: 7月4日代式後、

パニヒダ埋葬式を、練習します。主日聖体礼儀後も気の付いた点を短時間練習します。

また朝、9時15分頃から声出しウォーミングアップをしています。どなたもご参加できます。

♪半田: 7月21日 12:00

7月の指揮当番 18日エレナ広石 25日ピーメン松島

**ズナメニ研究会** 7月14日水曜日 1時30分～  
クリューキ記号の復習

### 「代式祈祷」と「聖体礼儀代式」の違い

『時課経』の137ページにある「聖体礼儀代式」ティピカ(露イブラジーチェリヌイエ)は、日本で行われている「代式祈祷」とは別物です。いわゆる「代式祈祷」は日曜日の聖体礼儀に準じて、聖変化に関する部分を省いて編集されたものです。輔祭がいることを前提に作られています。誦経者あるいは信徒の代表が輔祭の役目を務めて行われています。

しかし、集まった信徒が女性だけの場合に、女性が連祷を行うのには抵抗感があります。ある女子修道院では祭日の朝、三時課、六時課に続いて聖体礼儀の代わりに「聖体礼儀代式」を読んでいました。ひとつのヒントになると思います。

ちなみに大斎では「聖体礼儀代式」は九時課のあとに読み、晩課、先備聖体礼儀に続きます。

## 5. イパコイ 応答歌

ὑπακοή; ипакои

詩はトロパリと同じ性格。復活祭、降誕祭、神現祭の早課にセダレンの位置（たとえばカノンの第3歌頌のあと）で歌われます。イパコイ ὑπακούεινとは「聴く」「答える」「従う」の意味で、歌い方のスタイルに由来する名称です。最古のロシア写本を見るとコンダカリ表記が用いられていることから、高度に装飾的なメリスマ的性格のメロディであったことがわかります。もともとはカンターまたはソロの歌い手が歌い、それに続いて全会衆が歌っていたと考えられています（多分カノナルフ形式で）。しかし今では一般に誦経者がシンプルに読み、特別な礼拝上の音楽特性はありません。

## 6. アンティフォン 唱和詞

τὸ ἀντίφωνον; антифонъ

一般にアンティフォンは2つの聖歌隊が交互に歌うスタイルを言います。アンティフォンの名称を持つものの代表として次の三種類があります。

1. 啓蒙礼儀のアンティフォン：聖詠の句と交互に歌う。（主宰の祭日、指定のない祭日の聖体礼儀）※1.
2. 土曜晩課、第1カフィズマの最初の3つの「光荣は」（「悪人の謀」）。※2
3. 主日早課、福音の読みの前に歌われる。詩型としてはトロパリ。一つのアンティフォンは3  
スタンツァ  
節。さらに第1第2第3と3つのアンティフォンで一組。八調だけは例外で第4までである。このアンティフォンは内容が「登上の歌」との副題のある第119聖詠から第132聖詠に基づいているため、ステペンナ（品第詞）（ἀναβαθμοί; степенны、段を上るの意）とも呼ばれる。各調ごとに固有のメロディがある。各スタンツァは、まず右聖歌隊が歌い、左聖歌隊が繰り返す。※3

主日以外に、祭日で早課福音が読まれる日には、四調の第1アンティフォン「我が幼き時より....」が必ず歌われます。歌い方は右のとおりです。

そのほかに、聖大金曜日の早課（十二音）に歌われる特別なアンティフォンがあります。長短様々な15個のアンティフォンが、第1から第5福音までの間に、三個ずつセットになって挿入されています。聖歌隊が交互に各節を繰り返して歌います。

### 早課 ステペンナ4調の実施方法

- |         |  |
|---------|--|
| 1.右聖歌隊: | 我が幼き時より多くの愆は<br>我を攻む、吾が救世主よ、爾親<br>に我を守りて救ひ給へ。                              |
| 左聖歌隊:   | 同上、繰り返す  |
| 2.右聖歌隊: | シオンを悪む者は主より辱を受けよ、爾等草の火に於けるが如く枯らされんとすればなり。                                  |
| 左聖歌隊:   | 同上、繰り返す  |
| 3.右聖歌隊: | 光荣は父と子と聖に帰す<br>聖神 <sup>o</sup> にて凡の霊は活かされ、<br>清浄を以て愈上り、三位の一体<br>にて奥密にて照さる。 |
| 左聖歌隊:   | 今も何時も世世に、「アミン」<br>同上、繰り返す  |

### 訳注:

※1. 聖体礼儀の冒頭に3つのアンティフォンとして「我が霊よ」で始まる第102、145聖詠と真福詞を歌うのはパレスチナの聖サワ修道院の伝統で、日本を含むロシア系の教会で行われています。この場合アンティフォンと呼ばれていても、スタイル的にはアンティフォンではありません。ビザンティンの伝統を嗣ぐギリシアなどでは、日曜日も主宰の祭日と同じく、聖詠の句に「救世主や、生神女の祈祷によって…」などのリフレインをはさんで歌います。

※2. 「悪人の謀」とは第1カフィズマの第1段すなわち第1聖詠から第3聖詠のことです。現在、通常は5-6句を選んで歌いますが、全部を歌うこともできます。かつてはリフレインとして聖体礼儀と同じく「救世主や…」が歌われました。

※3. 現在では祭日の4調以外、歌われずに読まれています。ビザンティン、ズナメニイのチャント本には各調のアンティフォンごとに特別のメロディがあります。

正教会の奉事には大聖堂の伝統と修道院の伝統、コンスタンティノーブルの伝統とパレスチナの伝統が複雑に混じり合っています。

たとえば、アンティフォン、連禱などはコンスタンティノーブルの大聖堂の奉事の伝統で、時課経ベースの晩課や早課の変わらない部分はパレスチナの聖サワ修道院の要素が多く、三歌齋経や八調経には聖サワとコンスタンティノーブルのスタジオスの両修道院の伝統が多く含まれます。

## ホームページのご案内

### ○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>  
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 Liturgia

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料